

| | | |
|------|---|--------------------------------|
| 表彰区分 | マロニエ建築賞 | |
| 作品名 | 総合スポーツゾーン新武道館 | |
| 所在地 | 宇都宮市西川田 4-1567 他 | |
| 用途 | 観覧場 | |
| 建物概要 | 構造：鉄筋コンクリート造一部木造 | 敷地面積：545,803.74 m ² |
| | 階数：地上 2 階 | 延べ面積：9,761.06 m ² |
| 建築主 | 栃木県宇都宮市塙田 1-1-20 栃木県 | |
| 設計者 | AIS・フケタ・田村特定建築設計業務共同企業体 | |
| 施工者 | (メイン武道場) 中村・板橋・岩村特定建設工事共同企業体 (サブ武道場) 東武・日豊・松本特定建設工事共同企業体 | |

講 評

栃木県総合運動公園を再編・拡充し、2022年国体に向けて整備が進む総合スポーツゾーンに建つ新武道館である。県産杉材でスチールプレートを挟んだ繊細な木質架構（大臣認定）が大らかにメイン武道場を包み、サブ武道場、弓道場とともに、むくりのある屋根で公園の景観を形成している。競技の際に多くの人々が行き交う動線は、大階段と通り抜けの交流ホールでスムーズに処理されている。武道を競う場としての凜とした緊張感が感じられるとともに、栃木の山並みや、公園の環境とも連続し、質の高い空間を形成していることが高く評価された。屋根架構の木材の他にも、大谷石の壁面、芦野石の床面、佐野鋳物の金物、益子焼の衛生陶器、烏山和紙の照明など、地域素材をふんだんに用い、この土地ならではの建築となっている。ゾーン全体の整備が進行中であり、周辺施設やランドスケープも含めた環境の中で、要となる施設となる姿を期待したい。

